

### 3. 調査結果の概要

高等学校卒業後の進路として、大学などへの進学が多い「普通科」と、就職が多い「専門学科」では、教科「情報」の授業内容や授業における重視点、さらには教員の意識や取り巻く環境が異なることが予想される。また、専門学科においては、その制度上、専門教育に関する各教科・科目によって普通教科「情報」の履修を代替できる。そこで「普通科」と「総合学科」を「普通科・総合学科」に、「普通系専門学科」と「職業系専門学科」を「専門学科」として2カテゴリにまとめ、全体だけでなくカテゴリごとでも結果を考察した。

#### 3.1. 「回答者の基本情報」について

回答者の勤務する学校は、ほとんどが「全日制課程」で、「普通科・総合学科」のおよそ90%が「普通科」、「専門学科」のおよそ90%が「職業系専門学科」である。

情報担当教員数は、「普通科・総合学科」で77%が1～3名であるが、「専門学科」は他教科での代替が多いため、およそ60%が「5名以上」と回答している。非常勤の教員数は学科に関わらず70%以上が「0名（非常勤はいない）」と回答している。

回答者は、学科に関わらず教員歴10年以上の教員が多く、回答者のおよそ半数が情報の授業が義務化された2003年度から教科「情報」の授業を行っている。

以前に担当していた教科は学科によって差があり、「普通科・総合学科」では「数学」「理科」が多いが、「専門学科」では「専門教科」が多い。また学科に関わらず「商業」を担当していた教員が多い。

他教科との兼任率は「普通科・総合学科」では75%、「専門学科」で90%である。これは「専門学科」では、既存の情報関連科目で代替することが多いためと推測される。

#### 3.2. 『情報』の授業について

分割履修を行っているのは全体のおよそ10%であった。各年次では非分割履修形態のうち、80%以上が1年次に開講している。2年次・3年次での開講はともに30%を下回る。履修内容は、「普通科・総合学科」では、「情報A」が多く、特に1年次に開講している授業のうち、およそ3/4が「情報A」である。年次が上がるほど「情報A」以外の履修が徐々に増え、3年次では「情報A」は26.1%、「情報B」は24.6%、「情報C」は31.9%となる。全ての年次において「情報B」が最も低い。

「専門学科」では、年次に関わらず「代替科目」が最も高く、1年次58.5%、2年次64.2%、3年次51.9%であった。「情報A」「情報B」「情報C」の比較では、「情報A」が多い。

高等学校入学時の生徒のスキルについて、高等学校入学時点で「必須」と位置づけられている割合が高いのは「コンピュータの基本操作」と「キー入力」で、学科に関わらず教員の60%以上が必須と考えている。また「必須」のスコアが高い項目は、授業開始時に「チェックしている」スコアも高い。

学科の違いを見ると、「普通科・総合学科」よりも「専門学科」の方が、「必須」「チェックしている」のスコアがともに高く、特に「プログラミングの基礎」は高い。

学習内容ごとに、「教えているか」「重要と考えているか」「指導の自信があるか」を聞いたところ、学科に関わらず、「文字入力・タイピング」「ワープロソフトによる文書作成」「表計算ソフトによる表の作成」など、日常生活で利用頻度が高いであろうソフトウェアの基本操作や、「他者の権利と法制度」「情報社会におけるコミュニケーション(ルールやマナー)」「情報社会における安全性」といった「情報社会と情報に関わるモラル」を教えている割合が高い。そのうち「情報社会と情報に関わるモラル」は基本操作より重要と考えているものの、指導に自信がある度合いは基本操作のそれより低い。

指導に使用する具体的な教材としては、教科書以外に「自作の資料プリントやワークシートなど」

「市販の問題集やワークブックなど」をおよそ 70%の教員が利用している。またこれらの情報を主に「書籍・雑誌・新聞などのペーパー・メディア」や「Web」から収集していることも確認された。

周囲の理解の程度については、相対的に他教科教員より管理職のほうが理解していると認識しており、回答者の 70%以上が「管理職は理解している」と回答している。また、管理者や他教員がより理解を深めるための工夫・行動として、教科「情報」と他教科との関連性を訴求したり、生徒の作品や実習の成果を他教員に公開・発表したりしている様子が確認された。

担当教員として、多くの回答者が教科「情報」を重視しているが、大学受験科目に取り入れるべきか否かについては意見が二分化し、「入試科目として積極的にとりいれるべき」という意見と、「取り入れるべきではない」という消極的な意見の両方が見られた。

### 3.3. 学校の情報化について

本来、教科「情報」の授業とは独立したものであろう「学校の情報化」に関して、情報機器やネットワーク、その他学校のシステム管理、及び他教員へのサポートを、教科「情報」担当教員複数で行っていることが確認された。

研修や研究会の参加状況について、研究会に参加している教員は全体でおよそ 40%。研究発表会や研修会などのイベントの参加状況は、参加しても 1・2 回で、およそ 40%は参加していない。学科別で見ると相対的に「専門学科」の教員の方が研究会やイベントの参加率は高い。参加できない理由としては「校務が多忙であること」「開催地が遠いこと」「兼務している他教科に時間がとられる」などが挙げられている。今後受けた研修としては「授業や校務で使用するアプリケーションの操作方法」を希望する回答も見られるが、「他教員の指導方法の共有」や、情報の授業で重視されている度合いの高い「情報社会と情報に関わるモラル」に関する研修を希望する回答が多い。

「IT パスポート試験」の回答者の認知と（生徒への）受験推奨意向について、学科に関わらず「知らない・わからない」が最も高いが、「専門学科」の方は、比較的、認知が高く「知っており生徒に受験を推奨する予定である」は「普通科・総合科」より 26 ポイント高い。また、現在実施している、若しくは重視している資格としては「パソコン検定」「日本語ワープロ検定」「ワープロ実務検定」「情報技術検定」「情報処理検定」が多く挙げられている。